

福岡大学 医学会ニュース

No. 40

福岡大学医学会 福岡大学医学部内

この三月で福大医学部が開設されてから二十八年が経過し、そろそろ一代が終わり次の世代への交替の節目を迎えようとしています。折しも臨床系では初代の主任教授が全退任されたことになり、一代目にバトンタッチされました。初代教授ならびに当時行動を共にされた教職員の方々には、無からのスタート

この三月で福大医学部が開設されてから二十八年が経過し、そろそろ一代が終わり次の世代への交替の節目を迎えようとしています。折しも臨床系では初代の主任教授が全退任されたことになり、一代目にバトンタッチされました。初代教授ならびに当時行動を共にされた教職員の方々には、無からのスタート

この三月で福大医学部が開設されてから二十八年が経過し、そろそろ一代が終わり次の世代への交替の節目を迎えようとしています。折しも臨床系では初代の主任教授が全退任されたことになり、一代目にバトンタッチされました。初代教授ならびに当時行動を共にされた教職員の方々には、無からのスタート

福岡大学医学部の現状と次世代への展望



池原 征夫
医学部長

トに伴う多くのご苦労があったと聞きますが、新しい医学部を自らの手で創り上げるのだという夢と情熱があったと思います。次の世代を迎えようとする今、医学部の現状を省みると、必ずしも明るい展望ばかりではありません。昨年の医師国家試験の合格率の低迷を例に取るまでもなく、学生教育の立て直しは急務であります。歴代の学部長、

トに伴う多くのご苦労があったと聞きますが、新しい医学部を自らの手で創り上げるのだという夢と情熱があったと思います。次の世代を迎えようとする今、医学部の現状を省みると、必ずしも明るい展望ばかりではありません。昨年の医師国家試験の合格率の低迷を例に取るまでもなく、学生教育の立て直しは急務であります。歴代の学部長、

トに伴う多くのご苦労があったと聞きますが、新しい医学部を自らの手で創り上げるのだという夢と情熱があったと思います。次の世代を迎えようとする今、医学部の現状を省みると、必ずしも明るい展望ばかりではありません。昨年の医師国家試験の合格率の低迷を例に取るまでもなく、学生教育の立て直しは急務であります。歴代の学部長、

教務委員二期目にあたり前年度の振り返りを行いました。当学部のカリキュラムは、低学年から医学概論、看護実習や施設見学等の医療体験が挿入されるなど、学生のモチベーションを高めるための配慮が随所に織り込まれており、他学と比しても遜色の無いものと考えます。しかし、

教務委員二期目にあたり前年度の振り返りを行いました。当学部のカリキュラムは、低学年から医学概論、看護実習や施設見学等の医療体験が挿入されるなど、学生のモチベーションを高めるための配慮が随所に織り込まれており、他学と比しても遜色の無いものと考えます。しかし、

教務委員二期目にあたり前年度の振り返りを行いました。当学部のカリキュラムは、低学年から医学概論、看護実習や施設見学等の医療体験が挿入されるなど、学生のモチベーションを高めるための配慮が随所に織り込まれており、他学と比しても遜色の無いものと考えます。しかし、

教務委員二期目に際して



小野 順子
教務委員

のレベルは特に荷重ではないに拘わらず、BSLの討論等でも問題点を把握出来ていない学生が相当数いることも否めない事実であります。また国家試験の成績は、医学教育を最終的に判定するものではないといえ、決して満足出来る結果ではありません。

のレベルは特に荷重ではないに拘わらず、BSLの討論等でも問題点を把握出来ていない学生が相当数いることも否めない事実であります。また国家試験の成績は、医学教育を最終的に判定するものではないといえ、決して満足出来る結果ではありません。

のレベルは特に荷重ではないに拘わらず、BSLの討論等でも問題点を把握出来ていない学生が相当数いることも否めない事実であります。また国家試験の成績は、医学教育を最終的に判定するものではないといえ、決して満足出来る結果ではありません。

のレベルは特に荷重ではないに拘わらず、BSLの討論等でも問題点を把握出来ていない学生が相当数いることも否めない事実であります。また国家試験の成績は、医学教育を最終的に判定するものではないといえ、決して満足出来る結果ではありません。

のレベルは特に荷重ではないに拘わらず、BSLの討論等でも問題点を把握出来ていない学生が相当数いることも否めない事実であります。また国家試験の成績は、医学教育を最終的に判定するものではないといえ、決して満足出来る結果ではありません。

のレベルは特に荷重ではないに拘わらず、BSLの討論等でも問題点を把握出来ていない学生が相当数いることも否めない事実であります。また国家試験の成績は、医学教育を最終的に判定するものではないといえ、決して満足出来る結果ではありません。

のレベルは特に荷重ではないに拘わらず、BSLの討論等でも問題点を把握出来ていない学生が相当数いることも否めない事実であります。また国家試験の成績は、医学教育を最終的に判定するものではないといえ、決して満足出来る結果ではありません。

のレベルは特に荷重ではないに拘わらず、BSLの討論等でも問題点を把握出来ていない学生が相当数いることも否めない事実であります。また国家試験の成績は、医学教育を最終的に判定するものではないといえ、決して満足出来る結果ではありません。

のレベルは特に荷重ではないに拘わらず、BSLの討論等でも問題点を把握出来ていない学生が相当数いることも否めない事実であります。また国家試験の成績は、医学教育を最終的に判定するものではないといえ、決して満足出来る結果ではありません。

のレベルは特に荷重ではないに拘わらず、BSLの討論等でも問題点を把握出来ていない学生が相当数いることも否めない事実であります。また国家試験の成績は、医学教育を最終的に判定するものではないといえ、決して満足出来る結果ではありません。

のレベルは特に荷重ではないに拘わらず、BSLの討論等でも問題点を把握出来ていない学生が相当数いることも否めない事実であります。また国家試験の成績は、医学教育を最終的に判定するものではないといえ、決して満足出来る結果ではありません。

のレベルは特に荷重ではないに拘わらず、BSLの討論等でも問題点を把握出来ていない学生が相当数いることも否めない事実であります。また国家試験の成績は、医学教育を最終的に判定するものではないといえ、決して満足出来る結果ではありません。

のレベルは特に荷重ではないに拘わらず、BSLの討論等でも問題点を把握出来ていない学生が相当数いることも否めない事実であります。また国家試験の成績は、医学教育を最終的に判定するものではないといえ、決して満足出来る結果ではありません。

第42回福岡大学医学会例会報告

●日時 平成12年3月22日(水) 17時から
●場所 福岡大学医学部臨床大講堂

〔司会〕 集会幹事 比嘉 和夫 教授

I. 開会の辞

II. 会長挨拶 医学部長 池原 征夫 教授
III. 優秀論文賞授与 〔司会〕 井手口 裕 助教授

Meningioma : a Histologic Immunohistochemical Analysis with MIB-1, PCNA, AgNOR and p53 For Appraising the Malignant Potential In Meningioma

呉 義憲 先生〔脳神経外科〕

「表面筋電図による膝前十字帯再建術後の大腿四頭筋の筋力評価と術後療法への応用」

佐伯 和彦 先生〔整形外科〕

IV. 講演

1. 優秀論文賞の要旨講演

呉 義憲 先生

佐伯 和彦 先生

2. 「HDL増加を標的とした、虚血性心臓病の治療戦略」

講演者 朔 啓二郎 先生〔内科第二〕

の教室の運営はもろろんのこと内科全体の纏まりに十分配慮していただき、教育・診療・研究に大いに指導力を発揮していただきたいとお願いしています。内科の場合は分化再編成でしたが、今後は統合型再編成を視野に入れた教育体制あるいは診療体制の改革が必要になってくること

の教室の運営はもろろんのこと内科全体の纏まりに十分配慮していただき、教育・診療・研究に大いに指導力を発揮していただきたいとお願いしています。内科の場合は分化再編成でしたが、今後は統合型再編成を視野に入れた教育体制あるいは診療体制の改革が必要になってくること

の教室の運営はもろろんのこと内科全体の纏まりに十分配慮していただき、教育・診療・研究に大いに指導力を発揮していただきたいとお願いしています。内科の場合は分化再編成でしたが、今後は統合型再編成を視野に入れた教育体制あるいは診療体制の改革が必要になってくること



副学長

菊池 昌弘 教授
(新任)

(平成11年12月1日付)

医学部長 (福岡大学医学会会長)

池原 征夫 教授
(再任)

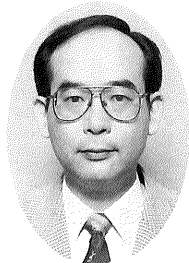


新 風

平成11年10月1日付 (一部11月1日付) で本学へ赴任、または昇格された方に自己紹介をしていただきました。

精神医学教授

西村 良二



私は昭和五〇年に九州大学医学部を卒業し、ただちに西園昌久先生 (現名誉教授) が主宰されていた福岡大学医学部精神医学教室に入局しました。当時、福岡大学医学部は創設二年目で、若々しい雰囲気でした。村田豊久助教授 (現一年度) に九州大学教育学部教授を退任、牛島定信講師 (現東京慈恵会医科大学精神科教授) など、そうそうたる先輩

たちから鍛えていただき、このことは、今の私の財産となつています。福岡大学には十三年間所属した後、平成元年からは広島大学総合科学部人間行動研究講座で助教授として、さらに平成七年四月からは広島大学医学部保健学科に教授として、看護婦、理学療法士、作業療法士の育成に力を注いできました。

整形外科教授

内藤 正俊



私は福岡県久留米市で生ま



『親心・子心(22)』

放射線科医員 春野 政虎

私は、第一生化学黒木政秀先生が作製された抗CEAマウスヒトキメラ抗体を、放射線科岡崎正敏先生から学んでいるIVRの手法にて、大腸癌患者さんに、臨床応用したいと念じている者です。しかし、今の自分の現実には診療・研究の一本立ちには、未だ成らずの状況です。いわずや、教育なんて為し得ずです。福岡大学病院医学部の組織の中で、自分の立場は、いわば不肖の息子です。

病院という機能集団の中で、今の私は常に「TAKE & TAKE」、何らの特技もないのが特徴です。ですから、唯一の特技としてアルバイトに行かず、平日は院内に居ることを心掛けています。また医療という広い森の中で、道に迷いたくない。医師の自由裁量権の名のもとに、変な治療だけはしたく

教室紹介 公衆衛生学教室

当教室のスタッフは、守山正樹 (教授)、福岡哲仁 (助教授)、嘉悦明彦 (助手)、諸藤雅子 (教育技術職員)、井上晴豪 (大学院生) に、柴田和典 (大学院生) に、由利佳代 (三人の研究生を合わせて八人です)。

教育は、M三の社会医学総論とM四の衛生学公衆衛生学及びその実習を衛生学教室と分担しながら受け持っております。事前予防医学・健康増進医学である公衆衛生学は、生まれる前から死を迎えるまで、また一人間個体から世界の人間集団まで、環境に至っては宇宙環境まで視野に入れた学問ですから、特に広い守備範囲が特徴です。医学部で

学生が自分たちで組み立てるテーマ実習があります。何れにおいても、実際に現場で働く人、住民と直接会って交流する「体験」が重視されます。将来どの分野で働くにせよ、基本的な知識、技術、態度、感性、倫理をバランスよく身につけた人材を育てるために、体験型の実習はとても大切なものです。

研究は、公衆衛生学の広い守備範囲に対応した幅広いものになっています。実験室レベルでは、環境中の様々な化学物質がミトコンドリアの呼吸鎖酵素に与える影響を調べ、特に中枢神経の細胞死のメカニズムを追っています。一方、実験室から外に出て、地域のフィールドワークで人間集団を対象にする研究も大切なものです。別の切り口として、人と人とのコミュニケーションをどのように円滑にしているのか、健康教育や医学教育を実践しながらその方法を研究しています。視覚障害

聴覚障害を事例的に、あるいはシミュレーションによって研究し、人の感覚を通じて生活や健康の認識がなされる有様に関連して、機能面を中心としたメカニズムの解明にも着手しました。人々の健康や疾病に関連した生活行動を説明できるモデルの開発研究は、翻ると医学教育や健康教育に役立ちます。公衆衛生は、人々の生活に関わる学問でもあることから、社会学や教育心理学、文化人類学等様々な学問と接点を持っています。アメリカのIllinois大学、韓国のKeimyung医科大学と始

めた模擬患者の比較研究には、そういった様々な分野の研究者が関わっています。二十一世紀の新しい学問体系を生み出す原動力になることも、公衆衛生分野に求められているように感じます。(文責 福岡)

眼科学教授 林 英之



昭和五三年に福岡大学医学部を卒業いたしました。第一部卒業生です。卒業後は生理

が、当時の教授が、突然某大に転任され、卒業を間近にして途方に迷いました。生まれてから福岡県を離れたことはなく、関門海峡の向こう側に暮らす度胸は惜けないことにありませんでした。実家は

十分は担当の職員がいます。その後は図書館の鍵は廊下の壁に掛けられ、ノートに氏名と使用時間さえ記入すれば、自由に使用可能なことでした。三番目は、患者さんの治療に関して発言は、上も下も関係ないことです。印象的だったのは夜の11時頃、広い読書室で、呼吸器内科の先生同士の議論が白熱し、最後は部長先生が、『これは年寄りの言うことを聞いとけや』と言った言葉です。研修医の先生方に対しては、自分が確実に知っている知識と技術のみを伝えねばならぬと心がけています。医学部学生に対して自分ができるかもしれないことは、M5の誰か一人と一緒に一年間かけ幼児用の「ドレーもん」から「シリウス」を読み切った、共に人の身体を理解を深めるくらいだろうと考えています。

眼科を開業してしましたので、研修医募集の締め切りをすぎから福岡の眼科におそろそろる人局をお願いしました。医局長から手を握られたうえ、お礼まで言われて拍子抜けしたのを憶えています。ちょうど教授の入れ替わりの時期で、そのどきどき紛れに採用してもらったと今でも考えています。そのまますま新大の教授の最初の弟子の一人として、二十一年に渡って福岡大学眼科にお世話になってきました。どんな領域にも、いわば大航海時代という時期があるようです。眼科にとってはこの二十年がそうでした。人工眼内レンズの発達による白内障手術の進歩、未知の領域だっ

(「新風」三面につづく)

の分野において他施設を大きくリードしています。また、小児科は教育面にも力を入れています。学生教育においては学生が興味を持ち、効率よく臨床実習に取り組めるよう昨年度よりBSLにチュ

「ター制を導入しました。卒業教育においても二年間で小児疾患を偏ることなく経験できるよう、関連病院での部外研修期間をもうける等の配慮をしています。」

最近、少子化が問題になっていますが、小児科入局者も全国的に減少してきており、小児科医の需要は逆に増加しています。これからも優れた小児科医の育成に努めて、

井上善仁



テロール引き抜
5→0)の構造と
の死亡率の年

ございました。

十二月三十一日退職の方

九州大学医学部へ

(平成十一年十月三十一日付)

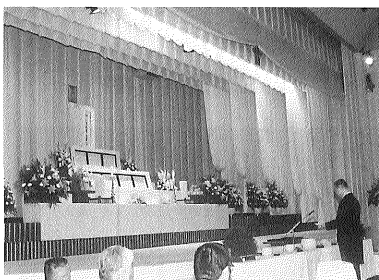
開業のため

(平成十一年九月三十日付)

開業のため

(平成十一年九月二十日付)

第26回 医学部慰霊祭



テロール血症とコレステ
A-1 Nichinan (Glu2
冠動脈硬化度との関
アジア諸国の1950年以

コレステロール、アポ
糖蛋白と
助手] ア

低HDL-C
A-1変異
主]血清
合研究室

ニングの
[究員]
アポ A
ニ研究生
学系総合

外国人研究
新しい
科学第
社会医

の水泳
華〔外
害を伴
の解析
丘〔内
一彦〔
ターン

息への
韓
き障
機能
森
吉永
齡パ

小兒科学教室

床実習に取り組めるよう昨年度よりBSLにチューター制を導入しました。卒後教育においても二年間で小児疾患を偏ることなく経験できるよう、関連病院での部外研修期間をもうける等の配慮をしています。

最近、少子化が問題になっていますが、小児科入局者も全国的に減少してきており、小児科医の需要は逆に増加しています。これからも優れた小児科医の育成に努めたいと思います。

(文責 山口)

学位取得

次の方は、平成11年11月16日付で、福岡大学より医学博士を授与されました。

☆ 課程修了による学位取得者

加藤 晶子 [病態構造系] 胃腸管 T/NK 細胞リンパ腫, 細胞障害性分子を発現する $\alpha\beta$ 、 $\gamma\delta$ ならびに NK 細胞リンパ腫

尾石 樹泰 [病態構造系] 胃 sm 癌のリンパ節転移予測因子に関する臨床病理学的・免疫組織化学的研究

☆ 論文提出による学位取得者

岡村 憲子〔病理学第二助手〕 Fibronectin Glomerulopathy 4 家系 5 症例の臨床病理学的特徴と形態学的検討

櫻田 二友〔学外者〕抗原誘発による気道反応に対するプランルカストとロイコトリエン B₄ 受容体拮抗剤の相乗効果

西本 五郎 [小児科医員] アルギニンバズプレッシン(抗利尿ホルモン, 以下A V P)によるラット腎組織中のアクアポリン2 (以下AQP2) のリン酸化刺激

松本 一郎〔小児科助手〕気管支喘息児における有酸素作業能および運動誘発喘息への水泳トレーニングの効果

韓 華 [外国人研究員] 低HDLコレステロール血症とコレステロール引き抜き障害を伴う新しいアポA-1変異体、アポA-1 Nichinan (Glu235→0)の構造と

機能の解析

森 丘〔内科学第二研究生〕 血清糖蛋白と冠動脈硬化度との関連

吉永 一彦〔社会医学系総合研究室助手〕アジア諸国の1950年以降の死亡率の年齢パターン



松野由季さん・濱中和嘉子さん・永山千晶さん（いずれも三年生）の三名が左記の栄誉に輝きました。

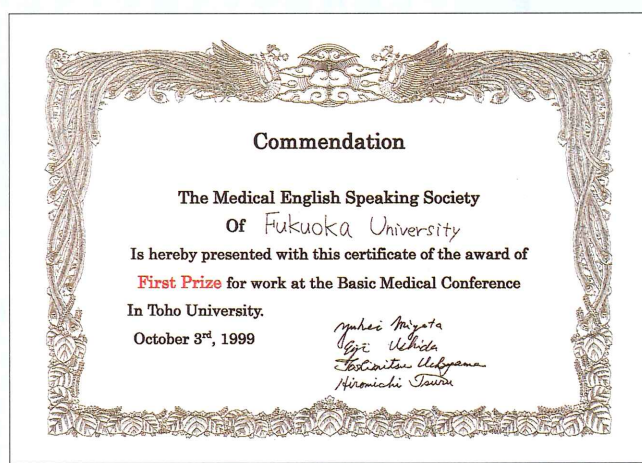
受賞名：JIMSA（日本国際医学生団体）主催一九九九年

BMC (Basic Medical Conference) 優勝

内容：「ラットのニューロンアセチルコリン受容体 $\alpha 4$ 、 $\beta 2$

サブユニットのcDNA単離とヒトてんかんの遺伝子変異導入。ラットのでんかんモデル作成への第一歩として」の研究の英語による発表

受賞者の一人、松野さんに優勝の喜びを語っていただきました。



ESS快挙

「一九九九年一月三日（日）、東邦大学で行われた英語による研究発表の大会で優勝しました。他校の優れた研究発表の中で、私たちが受賞できたことをうれしく思います。慣れない研究室通いを五か月間続けた成果が、このような賞に結びついたのだと思います。何もわからない私達三人をずっと指導して下さいました小児科の廣瀬先生、諸先生方、本当にありがとうございます。学生時代にしかできない活動にどんどん参加し、日々向上していく事は素晴らしい事です。何にでも挑戦していく精神を大切にしていきたいと思えます。」



左から、濱中さん、松野さん、永山さん

ボルチモアより

生化学第二 藤原 俊幸

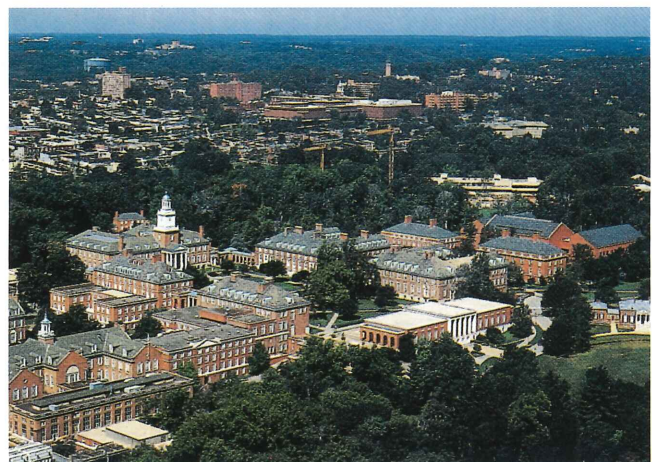
平成十一年五月より米国ボルチモアにあるジョンズホプキンス大学で研究をしております。ボルチモアは東海岸のメリーランド州にあり、ニューヨークの南西約三〇〇km、首都ワシントンDCの北東約六四kmに位置しています。カニ（日本のワタリガニに相当する）と大リーグのオリオールズが有名ですが、ジョンズホプキンス大学もまたこの街の売り物のひとつであるようです。ランク付けの好きなアメリカのマスコミが毎年発表する全米大学ランキングでもボルチモアにあるジョンズホプキンス大学として常にトップ10内を確保していると同時に、病院が診療及び研究面において非常に高い評価を得ていることがこの大学の地位を押し上げています。その病院を含むメディカルキャンパスですが、ボルチモアでも治安の良くない場所にあります。それとこの大学のポリスという名の周辺に貧困層を救うという目的で病院が建設されたためです。実際、角毎に警官が常駐しており、夜などあまり歩きたくない雰囲気です。本部のあるキャンパス（ホームウッドと呼ばれている）のいかにも大学構内といった環境の良さは極めて対照的です。



海外だより

私が所属している医学部細胞生物学部門には九つのラボがあります。特徴としてまず挙げられることは一つの研究室を除き主催者が全員女性であるということです。細胞生物学はもとより多くの女性研究者が活躍している分野ではありますが、こういうのも珍しいのではないかと思います。私はその中のアン・ハバード

内外に名の知られた有名大学であるだけに、留学生の数も非常に多く、その出身国もアジア、中南米、アフリカ、ヨーロッパ等留学生のきていない国はないといってもいいほど国際色が豊かです。日本人留学生もメディカルキャンパスだけでなく常時数十人が在籍しているようです。ここにいると世界には様々な文化を持った国民がいるんだなあと不思議に思っています。その人種の多さの中でいろいろの人からサイエンスに対する姿勢というものを



ジョンズホプキンス大学ホームウッドキャンパス全景。医学部までシャトルバスが頻繁に出ている。学生、留学生の多くがこの近辺に住む。

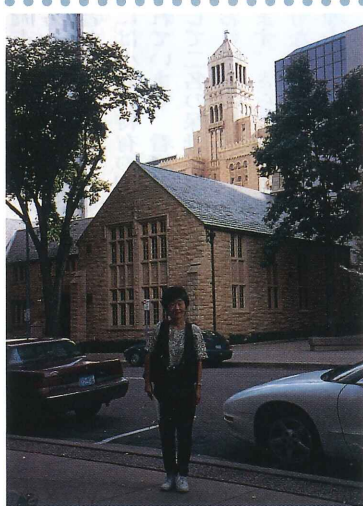


写真2：Mayo Medical Center、ダウンタウンキャンパスにて。中央に見える塔のある建物は、Plummer disease発見者であるDr. Plummerの設計により、1927年に建てられたPlummer Buildingです。このビルに医学図書館としても有名なMayo Medical Libraryがあります。この塔から流れる美しいキャリロンの音は建設以来、人々の心をなごませています。私は右端に見えるHilton Buildingと写真1の敷地内にある2つのラボをシャトルバスを使って行き来しながら、仕事をするようになりました。

ミネソタより

生化学第一助教授 立石カヨ子

平成11年4月より1年間の予定で、在外研究の機会をいただき、米国メイヨ財団、臨床化学部門で膵、消化管ペプチドホルモン（AmylinとGLP-1の作用と分泌調節機構の研究）に

関しての仕事をしています。メイヨ財団はミネソタ州のロチェスター、アメリカの中央北部に位置し、緯度から言いますと日本の札幌に相当します。ここに全米および世界中から患者が訪れるMayo Medical Centerがあります。現在、ロチェスターにはMayo Clinic, Mayo Foundation, Mayo Medical School, Mayo Graduate School of Medicine, Mayo School of Health-Related Sciences、附属病院としてのSaint Mary Hospital (1200床) 及び Methodist Hospital (800床) があります。また、フロリダとアリゾナに分院があります。1998年度の統計によれば、年間外来患者182万人と入院患者10万人、職員は32,600人（医師、パラメディカル職員、研究員、事務系職員、レジデントも含む、ちなみに、医師の数は3,171人）、研究費は総額\$206.5million（約227億）（Mayoから97.1million、他機関から109.4million）、教育費は総額109.4millionとなっています。患者数は1999年の一年間で前年度の倍近くに増加し、職員の増加が最優先課題であるとなっていました。ざっと、Mayoとはこんなところ。今回で私は3度目のメイヨ滞在となりましたが、前回、16年前とはシステムと規模がガラッと変わっていました。まず、到着後、Research Administrationに行き、Mayoの方針に同意する誓約書（特にデータの機密に厳しい）



写真1：St. Mary Hospitalの旧正面玄関。Mayo Clinicの実質的な医療活動は1889年、27床で、この場所で始まりました。

や書類の何枚にもサインし、諸手続を終えた後、Safety Orientation (Emergency Preparedness PlanやInfectious Agents, Hazardous Substances, Ultraviolet light, Laser等の取り扱い注意) やRI取り扱い講習会等の予約をもらいました。これらの講習会では、グイズと称する筆記と簡単な実地試験があり、これらを通過しなければ、実験は始められません。私の場合、共同プロジェクトの1つでは、患者血液サンプルが必要であったため、研究検討委員会 (Institutional Review Board: IRB) に研究の目的、概要、予測される結果等を書いた申請書、コンセンツフォームの作製、及び採血場への指示書を添付して提出し、許可を得なければなりません。IRBへの申請の仕方、コンセンツフォームのテンプレートなどは、インターネットで得られるようになっていました。コンセンツフォームを作る時に印象的だったことは、患者への説明には6th grade languageで書くようにと指示されていたことです。そこで、What will happen in the study? の説明では“2 teaspoonsの血液を採取します”と書きました。この委員会で承認後は、コーディネーターの看護婦が患者から同意のサインをもらった後、先に採血場に提出してある指示どおりに、採血、血漿分離などの処理がおこなわれ、随時、血液サンプルが手元に届けられる事になりました。一方、研究施設の中に、ペプチド合成、DNA合成、各種分析などを請け負ってくれる専属ラボがあり、これもインターネットで注文するようになっています。例えば、ペプチド合成の場合、日本で業者に注文する場合の5分の1以下の費用で済み、ためらわずに、数種の合成を頼むことが出来ました。このように、システムが整備されているため、何をやるにも手続きがいりますが、後は自動的に動くことになり、仕事がしやすいといえます。その他、これまで日本で経験しなかった様々なことを体験することができ、今後の研究、教職員生活にいかせたいと思っています。

最後になりましたが、此の様な機会を与えていただいた福岡大学及び大学医学部に感謝いたします。